

アジア感染症対策プロジェクト 第8回 共同調査研究会議 概要

会期 2016年（平成28年）12月20日～21日

場所 東京都庁 42階特別会議室 A

参加者 バンコク(5人)、ハノイ(1人)、マニラ(1人)、ソウル(2人)、台北(3人)、トムスク(1人)、東京(20人及び傍聴者40人)

プログラム

- HIV/エイズにかかる基調講演
- セッション：①HIV/エイズ共同調査研究
 - ②梅毒
 - ③共同調査研究会議のまとめ

会議概要

I HIV/エイズにかかる基調講演

- 駒込病院 今村顕史先生から「東京におけるHIV/AIDSのトピックス」として、感染者数の推移、保健所等での検査の状況、抗HIV療法、高齢化にともなう合併症への対応、今後の課題についてお話をいただいた。
- 特定非営利活動法人ぷれいす東京 生島代表から「HIV陽性者の支援について」として、ぷれいす東京の活動をはじめ、就労・メンタルヘルス等陽性者が抱えている問題点や実際に相談を受けた内容をお話いただいた。

II HIV/エイズ共同調査研究について（座長：矢内真理子部長）

- バンコク、ハノイ、マニラ、ソウル、台北、トムスク、東京からHIV/エイズの現状と、共同調査研究で取り組んでいたMSM対策、検査体制、外国人対応について報告がなされた。
- その後、各都市の検査の状況・課題等について情報交換がなされ、各都市の特徴ある内容を共有した。

III 梅毒の現状と対策について（座長：今村顕史先生）

- 東京、バンコク、台北から梅毒の発生動向と対策、課題について報告がなされ、具体的な症例や対策を写真をまじえて紹介した。
- ハノイ、マニラ、ソウル、トムスクから発生動向等について口頭説明がなされた。
- その後、東京での具体的な梅毒対策の状況と対策を紹介し、現在、顕著に感染が増加している若い女性への介入方法について、各都市と情報交換を行った。

IV 共同調査研究事業について

- 東京より、共同調査研究に係る経緯及びこれまでの結核、新型インフルエンザ、HIV/エイズの調査結果を説明し、2017年にHIV/エイズの各都市の調査研究をとりまとめた報告書を作成し、来年のプロジェクト会議にてこれを報告し、本事業は完了することに参加都市が合意した。
- また、2017年以降はプロジェクトに係る会議を年1回開催とすることに合意した。

V 次回のアジア感染症対策プロジェクト会議について

- 次回の第13回アジア感染症対策プロジェクト会議は、2017年8月前半にバンコクにおいて開催することで合意した。

VI 視察

- 特定非営利活動法人 akta

岩橋恒太代表よりゲイコミュニティとの深い関わりで築いたMSMへの啓発活動等について説明を行った。その後、NPO法人と行政の関わり、法人の役割等について、各都市と意見交換を行った。